Oracle WebCenter Sites 12c（12.2.1.2.0）の新機能

Oracle WebCenter Sites 12.2.1.2.0 は、パーソナライズやターゲティングを実施し、訪問者のプロファイルを管理することで、チャネルの垣根を越えて、優れたデジタル・エクスペリエンスを提供できるようにする製品です。この魅力的なエクスペリエンスを生み出すために、このリリースでは、マーケティング担当者が直感的かつ簡単に使用できる A/B テストなどの機能を提供しています。さらに、訪問者のプロファイルを管理できるようにし、Oracle Marketing Cloud および Oracle Data Cloud と統合できるようにしました。MVC 方式の新しいサーバー・サイド API と REST ベースの新しいクライアント・サイド API は、機敏な配信と開発期間の短縮を目指してこのリリースに追加されたものです。加えてこのリリースでは、モバイルのイメージ最適化機能、Contributor UI からの公開、アクセシビリティ（OAUG 2.0）、右横書き対応、DOJO ベースの新しい管理ツリー、共有ファイル・システムをデータベースに格納できる機能など、多数の機能強化が実施されています。

ロールごとの詳細情報

マーケティング担当者

サイト作成者

開発者

管理者

マーケティング担当者

IT 関連の作業を最小限に減らす機能によって、マーケティング担当者を支援します。

- A/B テスト

A/Bテスト

Oracle WebCenter Sites には、マーケティング用途を想定して開発された完全にコンテキストに則した A/B テストが付属しています。マーケティング担当者はどのページからでも視覚的に A/B テストをオーサリングでき、コンテンツとプレゼンテーションのいずれか、または両方を組み合わせたものをバリエーションとして使用できます。この A/B テストでは、テストを開始するタイミングやテストの勝者の認定方法、テストの終了方法をはじめ、その他多数のあらゆる制御条件を Contributor インタフェースから直接管理できます。また、A/B テストに関する、コンテキストに則したインタラクティブ・レポートが作成されます。マーケティング担当者はレポート・インタフェースから A/B テストを操作して、テストを継続するか、停止するか、特定のバリエーションをプロモーションするかを選択できます。配信を最適化するために、A/B テストでは WebCenter Sites のキャッシュ・メカニズムを利用します。

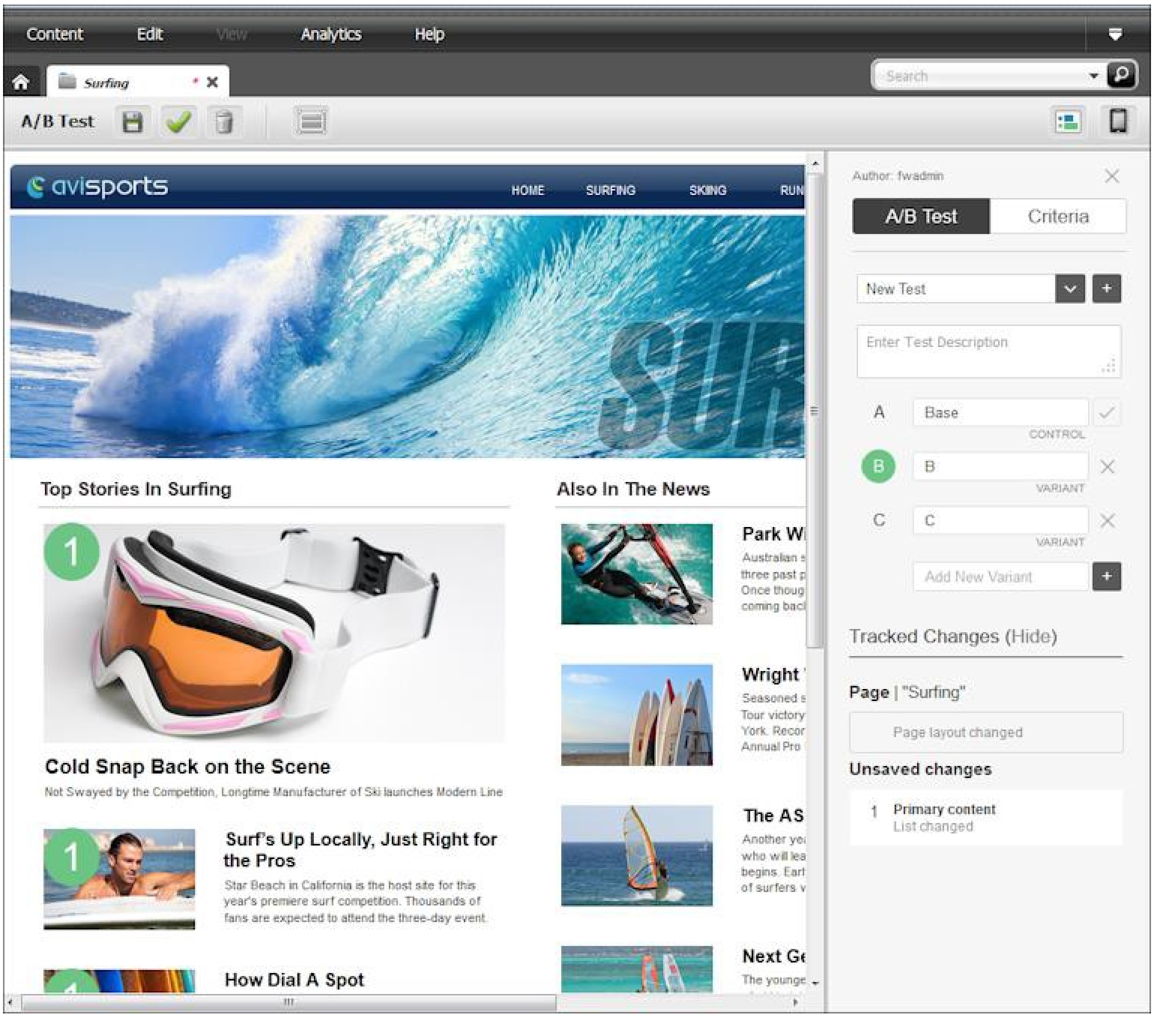


図1：Oracle WebCenter Sites ContributorインタフェースのA/Bテスト機能

A/B テストについて詳しくは、Oracle WebCenter Sites のドキュメントを参照してください。

Sites Contributor

- Contributor からの公開
- アクセシビリティとハイ・コントラスト
- 右横書き
- My Tags
- Inherited タブ
- Content Audit Reports

Contributorからの公開

オーサーが Publisher ロールを所有する場合は、ページとアセットを Contributor インタフェースから直接公開できるようになったため、Admin インタフェースからコンテンツを公開する必要がなくなりました。

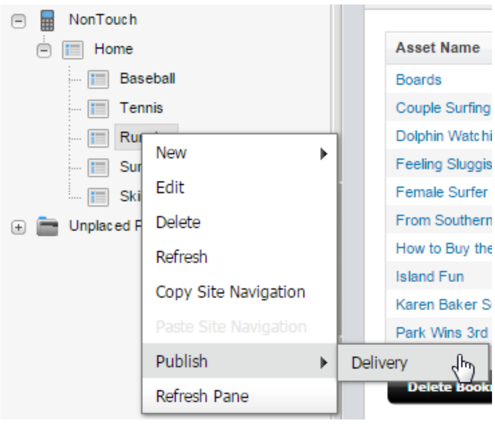


図2：WebCenter Sites ContributorインタフェースのPublishオプション

Contributor からの公開について詳しくは、Oracle WebCenter Sites のドキュメントを参照してください。

アクセシビリティとハイ・コントラスト

スクリーン・リーダーのサポート、カスタマイズ可能なキーボード・ショートカット、シームレスなキーボードベースのナビゲーション、Contributor インタフェースのハイコントラスト・モードなど、Oracle Accessibility Guidelines 2.0 に基づく構成可能なアクセシビリティ機能が WebCenter Sites でもサポートされるようになりました。

右横書き

右から左に書くアラビア語などの言語でも使用できるように、右横書きが Contributor インタフェースでサポートされるようになりました。

My Tags

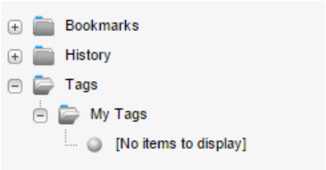


図 3：WebCenter Sites Contributor インタフェースの My Tags ツリー

マーケティング担当者のパーソナライズしたタグ・ツリーに My Tags ツリー・タブからアクセスできます。このタグをクリックすることにより、検索結果モードですべてのアセットにアクセスしたり、公開などの複数のアセット操作を実行したりできるようになりました。

Inheritedタブ

アセットのビュー・フォームで使用できる Inherited タブには、親アセットからアセットに継承されたアセット属性が表示されます。

Content Audit Reports *12.2.1.1.0の新機能*

Content Audit Reports は、指定した任意の期間におけるシステムの全体像を把握できる機能です。Content Audit Reports には、管理対象コンテンツ、公開済みコンテンツ、ワークフロー内のコンテンツ、新規コンテンツ、チェックアウト済みコンテンツ、およびコンテンツを担当しているオーサーに関する詳細情報が記載されます。これらの見やすいチャートとグラフによって、指定したレポート期間内のコンテンツ管理サイトについて、コンテキストに則した分析を行うことができます。Content Audit Reports の情報は、コンプライアンス目的に使用できます。また、各アセットの History タブには、そのアセットでの操作の証跡が表示されます。

Content Audit Reports について詳しくは、Oracle WebCenter Sites のドキュメントを参照してください。

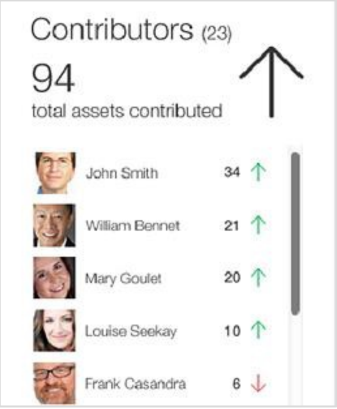


図 4：Content Audit Reports の Author Productivity

開発者

- サーバー側/クライアント側のコーディング
- Mobility フレームワークの機能強化
- Eclipse および CLI に対応した WebCenter Sites Developer Tools プラグイン
- Visitor Services
- WebCenter Sites の拡張

サーバー側/クライアント側のコーディング

最新の開発フレームワーク、データ・アクセス API、REST サービスが WebCenter Sites に組み込まれ、デスクトップ環境とモバイル環境の両方で使用されるアプリケーションを、これまでになく柔軟に開発できるようになりました。

新しい Model-View-Controller（MVC）フレームワークと新しいデータ・アクセス API を併用することで、ビジネス・ロジック（Groovy コントローラとして実装）とプレゼンテーション（Oracle WebCenter Sites テンプレートとして実装）を明確に分離したサーバーベースのアプリケーションを安定的に開発できます。このレベルの分離により、動的なデプロイメントと高パフォーマンス・キャッシングの両方のメリットをアプリケーションで生かすことができます。

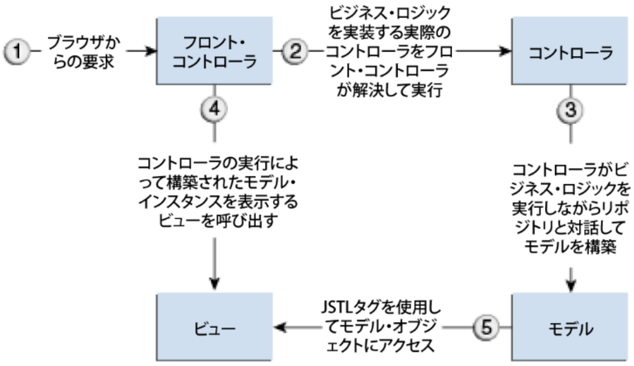


図 5：サーバー側レンダリングの MVC フレームワーク・プロセス

新しい集約型 REST サービスは帯域幅をほとんど消費せず、クライアントベースのシングルページ・アプリケーション（SPA）、モバイル Web、モバイル・アプリケーションの開発に対応したしっかりとしたコンテンツ・アクセス・メカニズムを備えており、カスタム REST サービスを作成する機能もあります。境界セキュリティ・ソリューションやシングル・サインオン・ソリューションに依存しないため、開発の柔軟性がさらに向上します。

MVC フレームワーク、データ・アクセス API、REST サービスは、Oracle WebCenter Sites のライフサイクルと Developer Tools（CSDT）に完全に統合されており、自由に組み合わせることができます。また、非常に短期間で習得でき、Oracle WebCenter Sites を基盤とする既存アプリケーションとの下位互換性も万全であるため、シームレスに導入できます。

Mobilityフレームワークの機能強化

Oracle WebCenter Sites Mobility フレームワークがモバイル・サイトのイメージ最適化に対応しました。最適化アルゴリズムとしては、組込みのものと外部のものが含まれます。また、Sites ビューと Device Groups ビューの両方でテンプレートの作成ができるようになりました。サーバー側/クライアント側のコーディングについて詳しくは、Oracle WebCenter Sites のドキュメントを参照してください。

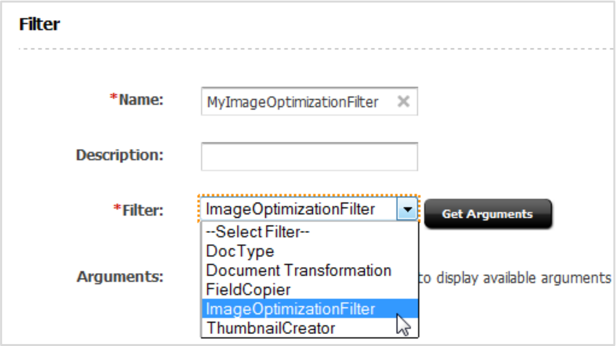


図 6：WebCenter Sites Administrator インタフェースの Filter ページ（ImageOptimizationFilter オプションを選択）

EclipseおよびCLIに対応したWebCenter Sites Developer Toolsプラグイン

Eclipse IDE 内から WebCenter Sites Developer Tools へのアクセスを可能にする、インストール可能なプラグインが WebCenter Sites に付属するようになりました。また、WebCenter Sites Developer Tools の機能にコマンドラインからもアクセスできるようになり、スクリプトベースの自動化が可能になりました。

Visitor Services

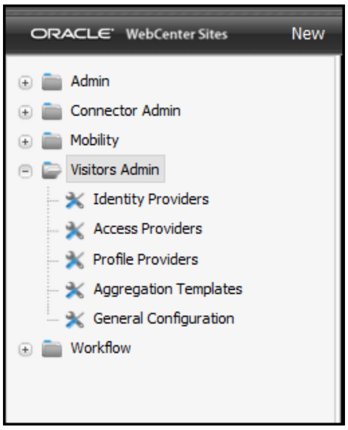


図 7：Oracle WebCenter Sites Administrator インタフェースの Visitor Admin ノード

Visitor Services は、WebCenter Sites から配信されるページで訪問者のプロファイルを把握し、ページに表示するコンテンツの絞り込みやパーソナライズを可能にするコンポーネントです。LDAP、Eloqua、Facebook、CRM システム、カスタム・データ・ソースといった複数のソースをまたいで訪問者のプロファイル・データを集約することもできます。Visitor Services を使用すると、訪問者を識別し、さまざまなリポジトリからプロファイルを集約して、プロファイルを結合または分離し、Java API や REST API からプロファイルにセキュアにアクセスするという処理を、集約テンプレートを使用してアプリケーション側で実行できます。テンプレートを使用して訪問者プロファイル・データにアクセスできるようにするために、WebCenter Sites API は Visitor Services API と緊密に統合されています。ターゲティングに使用するセグメントは、WebCenter Sites の Engage コンポーネントを使用して訪問者のプロファイル属性に基づいて作成できます。組込みの REST API を使用すると、情報強化した取得済みの訪問者データを外部アプリケーションと共有して、電子メール・キャンペーンのターゲティングの効率、CRM システム、その他多くのものをさらに機能強化できます。

WebCenter Sitesの拡張 *12.2.1.1.0の新機能*

WebCenter Sites を拡張する明快な方法の 1 つは、実装固有のカスタマイズ（静的 Web リソースや Java ライブラリなど）を共有ライブラリ `extend.sites.webapp-lib.war` に置くことです。この方法で WebCenter Sites を拡張すると、WebCenter Sites をアップグレードした後に、すべての既存の拡張機能を引き続き使用できます。共有ライブラリのメカニズムを使用した WebCenter Sites の拡張について詳しくは、Oracle WebCenter Sites のドキュメントを参照してください。

管理者

- Oracle WebCenter Sites 11g と Oracle WebCenter Sites 12c のアップグレード
- Admin インタフェース・ツリーの更新
- WebCenter Sites の新しいデプロイメント・プロセス
- Oracle Enterprise Manager
- データベースでの共有ファイル・システムの格納
- 新しいプロパティ管理ツール/プロパティの JSON 形式への移行
- セキュリティの強化
- ODL log4j
- XMLPost CLI のサポート
- IPv6 のサポート

Oracle WebCenter Sites 11gとOracle WebCenter Sites 12cのアップグレード *12.2.1.1.0の新機能*

11g から 12c、および 12.2.1.0 から 12.2.1.1 へのアップグレードを行うことができます。11g からのアップグレードは、アウトオブプレース移行です。このアップグレードの間に、Upgrade Assistant を使用してデータ表とプラットフォーム構成を移行します。12.2.1.0 から 12.2.1.1 へのアップグレードは、インプレース・アップグレードです。

Adminインタフェース・ツリーの更新

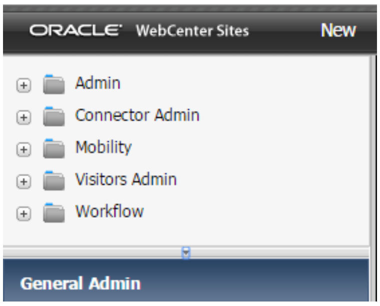


図 8：WebCenter Sites Administrator インタフェースの Admin ツリー

使い勝手の向上と多機能化を目指し、Admin ツリーの見直しが行われました。その結果、タブがなくなり、4 つの独立したツリー（General Admin、My Work、Content、Site）が使用できるようになりました。今後は Java アプレットなしでツリーを実行できます。

WebCenter Sitesの新しいデプロイメント・プロセス

WebCenter Sites とそのコンポーネント・アプリケーションが Oracle Universal Installer に組み込まれました。これまで手動で実行していたデプロイメント・タスクは自動化され、インストール後の構成タスクは Web ベースの Configurator から実行するようになりました。特定のデプロイメント・タスクは、これまでと同様に、ターゲット環境の特質に基づいて手動で実行する必要があります。

Oracle Enterprise Manager

WebCenter Sites および Visitor Services の管理と監視を、Oracle Enterprise Manager から実行できるようになりました。サポートされる操作は、インスタンスの起動/停止、コンポーネントのホーム・ページの表示、ログの管理、パフォーマンス・メトリックの確認です。

データベースでの共有ファイル・システムの格納

ローカルまたはネットワーク上のディスク・ボリュームではなくデータベースに、WebCenter Sites の共有ファイル・システムを格納できるようになりました。デフォルトのディスクベースの共有ファイル・システムは、標準装備の統合ツールによって WebCenter Sites のリポジトリ・データベース、または独立したスキーマに移動されます。ディスクベースの共有ファイル・システムに戻す操作も、このツールがサポートします。

新しいプロパティ管理ツール/プロパティのJSON形式への移行

WebCenter Sites とそのコンポーネント・アプリケーションの動作を統制するプロパティが JSON 形式で格納されるようになり、Admin インタフェースに新しく導入されたプロパティ管理ツールを使用してこれらを管理するようになりました。

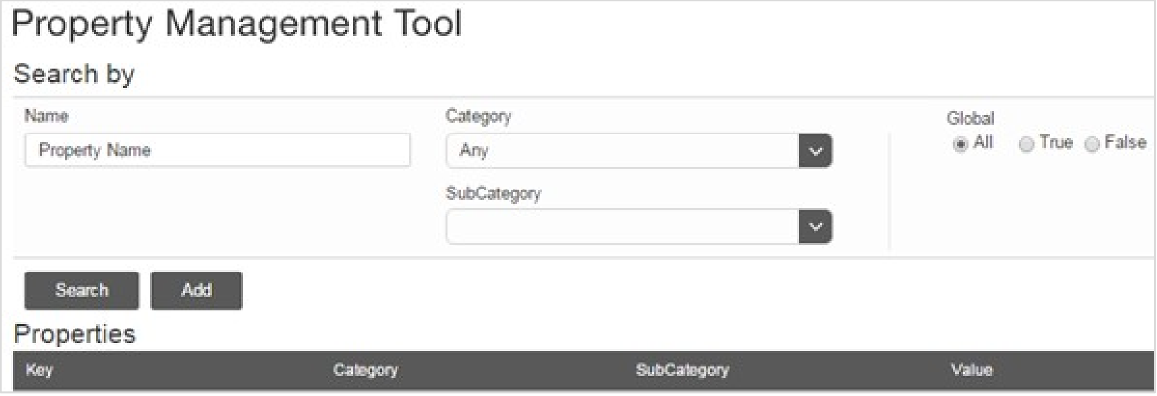


図 9：WebCenter Sites Administrator インタフェースの Property Management Tool ページ

セキュリティの強化

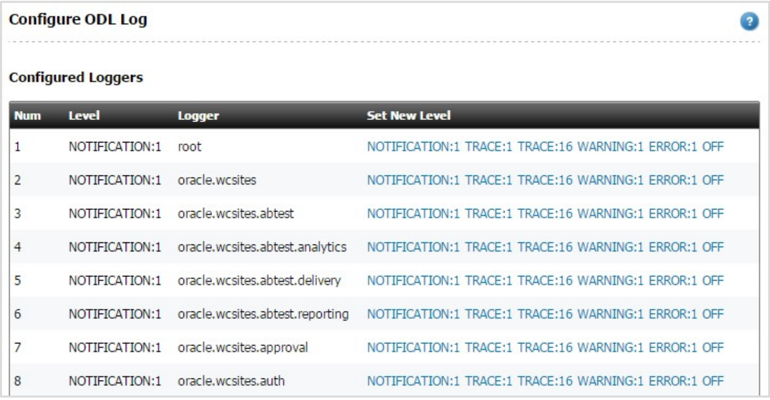
セキュリティを強化するために、Oracle Platform Security Services の資格証明ストアを WebCenter Sites でサポートするようになりました。資格証明ストアとの通信は暗号化（HTTPS）され、WebCenter Sites の個々のインスタンスは個別に認証されます。

OPSS について詳しくは、Oracle WebCenter Sites のドキュメントを参照してください。

ODL log4j

これまでの log4j ロギング・メカニズムが、より堅固な Oracle Diagnostic Logging ソリューションに置き換わりました。

ODL log4j について詳しくは、Oracle WebCenter Sites のドキュメントを参照してください。



Configure ODL Log

Configured Loggers

Num	Level	Logger	Set New Level
1	NOTIFICATION:1	root	NOTIFICATION:1 TRACE:1 TRACE:16 WARNING:1 ERROR:1 OFF
2	NOTIFICATION:1	oracle.wcsites	NOTIFICATION:1 TRACE:1 TRACE:16 WARNING:1 ERROR:1 OFF
3	NOTIFICATION:1	oracle.wcsites.abtest	NOTIFICATION:1 TRACE:1 TRACE:16 WARNING:1 ERROR:1 OFF
4	NOTIFICATION:1	oracle.wcsites.abtest.analytics	NOTIFICATION:1 TRACE:1 TRACE:16 WARNING:1 ERROR:1 OFF
5	NOTIFICATION:1	oracle.wcsites.abtest.delivery	NOTIFICATION:1 TRACE:1 TRACE:16 WARNING:1 ERROR:1 OFF
6	NOTIFICATION:1	oracle.wcsites.abtest.reporting	NOTIFICATION:1 TRACE:1 TRACE:16 WARNING:1 ERROR:1 OFF
7	NOTIFICATION:1	oracle.wcsites.approval	NOTIFICATION:1 TRACE:1 TRACE:16 WARNING:1 ERROR:1 OFF
8	NOTIFICATION:1	oracle.wcsites.auth	NOTIFICATION:1 TRACE:1 TRACE:16 WARNING:1 ERROR:1 OFF

図 10：Oracle Diagnostic Logging 管理ページ

XMLPost CLIのサポート

XMLPost ユーティリティにユーザー資格証明を渡す際に、.ini ファイルから読み取らせるのではなく、コマンドラインの引数として渡せるようになりました。

IPv6のサポート

WebCenter Sites とそのコンポーネント・アプリケーションで IPv6 プロトコルがサポートされるようになりました。これにはハイブリッド IPv6/IPv4 操作も含まれます。

ORACLE

Oracle Corporation, World Headquarters
500 Oracle Parkway
Redwood Shores, CA 94065, USA

海外からのお問い合わせ窓口
電話：+1.650.506.7000
ファクシミリ：+1.650.506.7200

CONNECT WITH US

- blogs.oracle.com/oracle
- facebook.com/oracle
- twitter.com/oracle
- oracle.com

Integrated Cloud Applications & Platform Services

Copyright © 2016, Oracle and/or its affiliates.All rights reserved.本文書は情報提供のみを目的として提供されており、記載内容は予告なく変更されることがあります。本文書は一切間違いがないことを保証するものではなく、さらに、口述による明示または法律による黙示を問わず、特定の目的に対する商品性もしくは適合性についての黙示的な保証を含み、いかなる他の保証や条件も提供するものではありません。オラクルは本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクルの書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

Oracle および Java は Oracle およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。

Intel および Intel Xeon は Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標はライセンスに基づいて使用される SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴおよび AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。0116

ホワイト・ペーパー・タイトル
2016 年 1 月
著者：[オプション]
共著者：[オプション]

Oracle is committed to developing practices and products that help protect the environment